

小中学校のバリアフリー化 市長の考えは

馬淵 紀明議員



必要な予算を確保していく

市長



▲市内の小学生が作成したスロープ(西川端小学校)

問 本市の小中学校のバリアフリー化に関する整備状況は。

答 18校中、車椅子使用可能トイレは、校舎に14校。屋内運動場には1校が整備済み。

段差の解消について、門から建物の前までは、校舎、屋内運動場ともほぼ段差なしで移動できる経路を確保。建物入り口から教室までは、校舎は1校で解消、2校で十分で

はないが、移動できる経路が確保してある。屋内運動場は、建物内部の移動には段差がある状態となっている。

エレベーターは、1校で校舎に設置してある。

問 災害時には、市内の小中学校が避難所に指定されている。現状では屋内運動場周辺の整備が遅れていると思うが、市の見解は。

答 避難場所となることも考慮した上で、学校施設全体で国の示すバリアフリー化に取り組まなければならないと考えている。

問 エレベーターを二基設置する場合の費用は。また、補助金はあるのか。

答 最低でも4千万円ほど必要。補助金は、今年度4月、文部科学省からバリアフリー化工事に対する割合が3分の1から2分の1に引き上げられ、これらを活用できると考えている。

と考えている。

問 バリアフリー化について市長の考えは。

答 現在通っている方、また入学する方でハンディキャップのある方に対しては、個々でしっかりと対応するべき。市当局としても必要な予算については確保し、教育委員会と協力していきたい。

その他の質問

● 新型コロナウイルス感染症対策は

問 国はエレベーターについて、「令和7年度末までに移動の配慮が必要な児童・生徒や教職員がいる学校に全て整備する」という目標を示しているが、市の考えは。

答 国の示す内容に沿ってそのような児童・生徒の在籍状況や使用頻度などを考慮した上で、計画的に検討を進める必要がある